

「わたしのアート」をつくることは生きること」

もみじ福祉会の機関紙は今号で記念すべき100号に到達！

カラー化した記念号となる今回の特集は先日ウッドワン美術館にて行われた「わたしのアート」をつくることは生きること」について。

この展覧会は広島県内の障がいのある方のバリエーションに富んだ個性あふれる作品を展示したもの。こちらの展示に「もみじ作業所」から4名の仲間（利用者）の作品が出品されました。

会期は終了しましたが、盛況に終わったという今回の展覧会について、今回の展示を担当されたウッドワン美術館学芸員の松浦さんに寄稿いただきましたのでご紹介したいと思います。



展覧会

「わたしのアート」をつくることは生きること」に寄せて

（公財）ウッドワン美術館 松浦瞳



ウッドワン美術館
学芸員 松浦さん

（株）ウッドワンという企業を母体とした、障がいがある方の表現活動を支援する新しい事業である one's art プロジェクトが立ち上がったのは2022年のことです。以降、プロジェクトが雇用する作家3名の展覧会を地道に重ねてきましたが、2025年の3月に one's art 主催初のグループ展「わたしのアート」をつくることは生きること」を開催することになり、当館において広島県内で表現活動されている総勢45組の方の作品約150点をお借りし、紹介する機会を得ました。

KONKONの佐々木さんに、第二もみじ作業所の板村さんと職員の方の吉田さんを紹介いただき、施設を訪れたのは昨年10月のことでした。まずはどんな風に絵を描いているかまず見てほしいという



良さそうな本田さん。楕円状に丸めたご自分の作品を修正するようにこねている池田さん。板村さんは威厳を湛えたまなざしで展示室の作品を見渡しておられました。この日来られなかった上川さんは、後日作品のモデルになったご家族と一緒に来館され、作品がめくれた部分を丁寧に直されました。

吉田さんの希望から、作業所での制作風景を見学させていただきました。時間が来ると長身の板村さんが入室され、職員の方と共に、壁にピンで留めた1枚の大きなターポリンの前に立ち、絵の具をひいた筆を画面に勢よく走らせ始めました。まるで神聖な場所に立ち会おうようなそんな気持ちで拝見させていただきました。

日々の営みの中から自然と生み出される個性豊かな表現は、時に切実で街でしるや嘘がなく、人が生きる力そのもののように感じることがあります。この展覧会が、人がその人らしくあることがそのまますま肯定されることの素晴らしさを実感できる場となったことは間違いありません。展覧会は予想人数を上回る1,000人超の来場数を記録し好評のうちに閉幕しました。会期中に複数回来館された方も少なくありません。アンケートの回答率が高いことが、来館者の方たちの感動や関心の高さを物語っていました。

最後に、お名前をご紹介しきれない位多くの方に、展覧会にご協力いただきました。皆様にご心より感謝申し上げます。



池田佳恵さんの作品



本田美恵子さんの作品



上川恵莉菜さんの作品



板村英治さんの作品



観覧した出品者も含め多くの方の目に触れた今回の展覧会。それぞれの見方で、愉しみ方で、展示を堪能してもらったのでは、と想像されます。

非常に意義深い展覧会であったと、支援者の一人としても思います。願わくはもみじ作業所から出品された作家たちを含めアートを媒介としてまだまだ社会とのつながりを作り出せる可能性を持った方々が、これをきっかけとして少しでも「その先」を目指して過ごしていけるようになればと思わずにはいられません。

今回寄稿いただいた松浦さんをはじめ、展覧会に関わってこられた方々に大変感謝申し上げます。ありがとうございました。

